

新潟大学生協

# 新しい読書推進の形 〜リーディング・スキル習得講座〜

新潟大学生協では4月から5月にかけての3日間でリーディング・スキル習得講座を開催しました。講座には42名が申し込み、3日目は30名が参加しています。受講生は講座を通じて、文章の要約や論点整理、批評的な読み方のコツをつかみ、専門書ビューワの特徴を使ってコミュニケーション能力を高めることに成功しました。固い文章を読むというハードルを越え、新しい読書体験とスキルアップ、読書を再開するきっかけになるとりくみとして広げていきたいと考えています。



各自でパソコンなどを用意して

## 講座の目的

そもそもリーディング・スキル習得講座開始のきっかけは、大学生の読書離れについて問題意識を持っていた担当者が、読書会のような形を通じて、何かとりくみができないかと発想したことでした。その後『本を読まない大学生〜大学教育と大学生協はどう関わる』(生協総研)、『生活協同組合研究』(2018年5月号)や『大学教育と読書 大学生協からの問題提起』(大学教育出版)、『全国大学生活協同組合連合会教職員委員会監修 玉真之介 編著』に紹介されている事例などから、スキル取得・読書のきっかけづくりとして、新入生向けの講座を設計することにしました。

- 本講座で目指すこととして考えていたことは次の3点です。
- ①「読書」が好きか嫌いかは別の次元のこととして、「読む」力を高めることが必要。センスに頼った読み方ではなく「スキルとしての読解力」をつける。文章を読み解いて論理的に理解する、対話する。
  - ②大学生の時代に主体的に学び、経験し、成長してほしい。主体的に学ぶ姿勢を育む方法の一つとして「読むこと」を提案したい。そうした姿勢を伴うかたちで、大学ならではの専門的な学びや研究に挑んでほしい。
  - ③大学生協の運動の一つにしていきたい。要素としては、大学生協が社会に巣立つ学生の今を変える、「組合員の成長のため」の事業展開であること。そもそも、大学生活において「学ぶ」ことには潜在的なニーズがあるはずで、取り組み

方で事業としての成立を目指せるのではないかと。また、社会的には一見ニーズがなさそうなことへもチャレンジし、ニーズを見出していくのが大学生協ではないか。こうした目的をもとに講座は次の内容で実施しました。

## 講座の形態

本講座は4月、5月にかけて3日間、1・5時間を一コマとして行っています。講座の中では、講師対受講生、受講生同士のワークや討論という二つの形式を織り交ぜることを意識しました。内容としては、要約・論点整理・コミュニケーションスキル取得・批評的な読みという要素で3日間を構成しています。もう一つの大きな要素は、受講生はパソコンなどのデバイスを持ち込み、大学生



スキルとしての読解力をつけるために



要約スキルの演習

協の電子書籍ビューア「Verity Wave eBooks」を活用しています。テキストは、電子書籍大学生生活スタートセットの中の「未来の年表」と講師作成資料です。講師作成資料にはグループワークで使用する電子書籍配信のワークシートもあります。

## 受講生の反応

1日目は電子書籍にマーカーを引きながら行う「要約スキル」。2日目は「論点整理と文章構造」の理解として、各人で行った要約をワークシートに貼ってグループ内で交流。3日目は「批評的な読み方」の習得。要約や論点を「ジブンゴト」として考え、ワークシートにメモにしてグループで意見交換。などの流れで3日間実施しました。

本講座を終えた学生の変化は期待以上のものがありました。リーディング・スキル各要素の取得について、「コツがわかり、成長や手応えを感じた」と答えた受講生

では、「要約のコツ」は96%、「論点整理のコツ」は6%、「コミュニケーションスキル」は96・7%、「コミュニケーションスキル」は96・7%と非常に高い評価となりました。ただし、「スキルアップ(身についた)」をした」と感じた学生は、「コツがわかった」と感じた学生よりは少なく、短期間で身につけるまでに至らないと感じている回答になりました。「要約スキル向上の実感」は73・4%、「論点整理スキル向上の実感」は73・4%、「コミュニケーションスキル向上の実感」は80・0%となっています。学生の声から講座だけじゃスキルは簡単に上がらない。継続しなければいけないが大変だけど頑張りたいと思いましたが、スキル取得のためには継続性が大切だとの実感が出されています。

読むことについては、受講者に前向きに促してもらえました。講座を受講して「読む力は変化した」が83・3%。「本を読むことに興味が変わってきた」が80・0%、「文章を読むことは今後の人生に有効」が96・6%との回答が出ています。講座を受講することで読書のきっかけに



リーディングのコツが分かった!

なったことが示されてきています。今後、この生まれた意識を萎ませないとりくみが必要ですね。

## 議論・様々な意見の交流は、楽しく、勉強

なりました。「リーディング・スキル」の向上だけでなく、コミュニケーション能力も向上することができたのでよかった。「多様な意見が飛び交う討論はやっていて発見があり、面白く、驚きがあった」「ただ反対意見を述べるのではなく、相手の主張を評価して述べるのが大切だということがあった」などたくさんさんの声とともに、「グループワークはスキルアップに役立つ」の設問では100%の受講生が「役立つ」と回答していました。高校生までの著者の主張を正確に捉える読みから、大学で必要な批評的な読みに変化させる上で、受講生にはグループワークは有効と受け止められました。大学入学の初期段階で本を読むグループワークは、今後大学生協が実践できるとりくみとして考えられると思います。

## 今後の課題と展望

今後の課題として考えていることは、まずは受講生フォローです。読むことや学ぶことを前向きに感じてもらった学生へ読む場面の提供を継続していきたくと考えています。すでに希望者を募って読書会を開始しており、「楽しい」「次も参加したい」「同じ本を語り合う機会がないのでも有意義な時間だった」などの感想が寄せられています。今後は、おすすめ書籍などの紹介や、更にスキルアップする学びの提供を検討しています。

次年度は、今年を受講生の声を内容へ反映させて、スキルアップが継続し成長が実感できる組み立てを考えていきます。また今後の大学生協の事業として、ビューアの機能を活かしたより深い学びの提案を展望しています。生協の教職員委員から出されている、アカデミックスキルズなど講義との連携をその一つとして取り組んでいきます。ビューアをより使いやすくしていくことと同時に、教員・学生が活用できる電子教科書の提案にも結び付けていきたいと考えています。

(専務理事 丸山隆之)



コミュニケーションスキルの向上を感じた受講者は8割に